

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：15501  
研究種目：若手研究(B)  
研究期間：2010～2013  
課題番号：22720017  
研究課題名(和文) ポルピュリオスとポルピュリオスの伝統

研究課題名(英文) Porphyry and Porphyrian Tradition

## 研究代表者

周藤 多紀 (Suto, Taki)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：50571733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本課題研究は、ボエティウスの著作の分析を通して、ポルピュリオスの言語・論理思想を再現することに成功した。研究成果を和文のみならず英文でまとめ、単著として出版した。その単著『Boethius on Mind, Grammar and Logic』はオランダの学術出版社 Brill の定評あるシリーズの一冊として出版され、欧文雑誌で書評も受けた。

ポルピュリオスの倫理思想については、テキストは読んだものの、論文は出版できなかった。しかし十三世紀に書かれた、未公開の『ニコマコス倫理学』注解の一つについて校定版を作成した。この注解には、ポルピュリオスを含む新プラトン主義者の倫理思想の影響が見られる。

研究成果の概要(英文)： Within this research period, I succeeded in describing Porphyry's semantics and logic by analyzing Boethius' works. The results of this research have been published in English as well as in Japanese. I published a book titled Boethius on Mind, Grammar and Logic in late 2011. The book was published by Brill, a renowned Dutch Academic Publisher and included in a long established book series. It received reviews in Journal of the History of Logic and Phronesis in 2012.

As part of my general research on Porphyry's thought, I have also read relevant texts although I have not yet been able to publish an article on his ethics. I have, however, edited a heretofore unedited text from 13th century England, which fits into the overall body of research on Neoplatonists, such as Porphyry.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：ボエティウス アリストテレス 新プラトン主義 言語哲学 論理学 倫理学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 2004年(平成16年度)頃から、私はボエティウスの言語哲学研究に従事してきた。一連の研究を通して、私はボエティウスの言語哲学がポルピュリオスの強い影響の下にあることに気づいた。ボエティウスの影響下で発展した西洋中世～近世哲学の伝統は、実はポルピュリオスの論理学・言語哲学によって大きく規定されているのである。

(2) 近年、海外では現存するポルピュリオスの著作や断片の校訂版、翻訳、註解書の出版が相次ぎ、ポルピュリオスに対する関心の高まりが見てとられる。私はこうした海外でのポルピュリオス研究の進展を目にし、私自身のこれまでの研究成果を生かして、ポルピュリオスとポルピュリオスの伝統下にあるスコラ哲学研究に貢献したいと考えようになった。ポルピュリオスに関する最近の研究の多くはポルピュリオスの個々の著作についての考察にとどまっており、それがためにポルピュリオス自身の思想の正確な理解に至っていない部分があるように思われた。私は、ボエティウスの著作の読解を通してポルピュリオスの論理学・言語哲学を明らかにし、その理解を念頭におきながら残存するポルピュリオスの著作を読むことで、各著作におけるポルピュリオスの意図により接近できるのではないかという見通しを持った。

## 2. 研究の目的

(1) ポルピュリオス(c.234-c.305 AD)はボエティウス(c.480-c.524 AD)の著作を通して、西洋の言語哲学及び論理学思想に大きな影響を与えた。しかし、少なからぬポルピュリオスの著作が失われたこともあり、ポルピュリオスの思想の研究の大半は、残存する個々の著作ないしは断片群ごとに行われてきた。本研究は、著作間の関係に注意を払うことで、

ポルピュリオスの思想の全体像に近づくことを意図していた。

(2) また、いわゆるスコラ哲学の形成と変容におけるポルピュリオスの影響について解明することも目的としていた。

## 3. 研究の方法

(1) ボエティウスの論理学著作とりわけ『命題論注解』『定言推論について』を読解し、ポルピュリオスの失われた論理学著作で展開されていたであろう、言語哲学・論理学の再現を試みた。

(2) 文献管理ソフトウェアを使用して、ポルピュリオスに関する、近年の出版物を一覧にまとめた。

(3) 欧米語訳を利用しながら、現存するポルピュリオスの著作を幅広く読んだ。

(4) 十三世紀の『ニコマコス倫理学』注解にどのようなものがあるか、校定版がすでに作成されているかを調査した。そして、未公開の資料のいくつかを写本で読解・書写した。

## 4. 研究成果

(1) これまでの研究によって少なからず誤解されていた、ボエティウスの意味論の基本構造を解明し、研究成果を英語で出版した。ボエティウスは、ポルピュリオス的意味論を古代から中世へと受け渡す役割を担っており、出版された英文単著は、古代哲学・中世哲学の研究者双方によって、引用・批評をうけている。したがって、本研究は、ポルピュリオスとポルピュリオスをはじめとした新プラトン主義の伝統に関する国際的な研究の進展に貢献したと言える。

(2) 近年出版された、ポルピュリオス研究

に関する文献表を作成して、ウェブ上で公開し、世界中の研究者が使用できるものにした。

(3) 西洋中世哲学の入門書の執筆と入門書の翻訳に関与し、専門家外にも広く西洋中世哲学研究への理解・関心を抱かせることに貢献した。

(4) 十三世紀の『ニコマコス倫理学』注解のカタログを作成して、出版した。未公開の『ニコマコス倫理学』注解の一つであり、これまで議論の俎上にあがっていなかった、『ウスター倫理学注解』（ms. Worcester Cathedral Library Q.13）の校定版を作成した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 周藤 多紀 『ウスター倫理学注解』における幸福概念 『西日本哲学会年報』第 21 号（2013）, pp.57-72. 査読有

② 周藤 多紀 「ウスター倫理学注解とその背景——世紀西欧の『ニコマコス倫理学』注解書」 『山口大学哲学研究』第 20 巻（2013）, pp.1-25. 査読無

③ 周藤 多紀 「ボエティウスのプラトニズム——アリストテレス注解の視点から」 『中世思想研究』第 54 号（2012）, pp. 120-130. 査読有

④ 周藤 多紀 「二種類の嘘——アウグスティヌスによる嘘の定義」 『アルケー（関西哲学年報）』第 19 号（2011）, pp.111-122. 査読有

〔学会発表〕（計 6 件）

① 周藤 多紀 「ボエティウスと自由学芸」 中世哲学会第 62 回大会, 京都大学(京都市), 2013 年 11 月 10 日

② Suto Taki "The *felicitas* in Anonymous of Worcester, Questions on Ethics." XXIII World Congress of Philosophy, University of Athens (ギリシャ), 2013 年 8 月 10 日

③ 周藤 多紀 「西欧十三世紀後半における「幸福」概念——アリストテレス『ニコマコス倫理学』受容の一側面」 西日本哲学会第 63 回大会, 別府大学(別府市), 2012 年 12 月 1 日

④ Suto Taki "How is Boethius a Platonist as well as an Aristotelian Commentator ?" XIII SIEPM Congress of Medieval Philosophy, Freising (ドイツ), 2012 年 8 月 24 日

⑤ 周藤 多紀 「ボエティウスのプラトニズム——アリストテレス注解の視点から」 (シンポジウム「中世におけるプラトニズム I」提題) 中世哲学会第 60 回大会, 西南学院大学(福岡市), 2011 年 11 月 6 日

⑥ 周藤 多紀 「嘘と二種の言葉——アウグスティヌスによる嘘の定義」 関西哲学会、第 63 回大会, 同志社大学(京都市), 2010 年 10 月 16 日

〔図書〕（計 3 件）

① 周藤 多紀 ほか訳 『ケンブリッジコンパニオン 中世哲学史』 京都大学学術出版会, 2012. 105-138 頁

② Suto Taki, *Boethius on Mind, Grammar and Logic: A Study of Boethius' Commentaries on Peri Hermeneias*, Leiden: Brill, 2012. 296 pp.

③ 周藤 多紀 ほか 『西洋哲学史 II』  
講談社, 2011, 155-178 頁.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

該当なし

○取得状況 (計 0 件)

該当なし

〔その他〕

ホームページ等

<https://sites.google.com/site/takisuto/sources>

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

周藤 多紀 (SUTO Taki)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号 : 50571733

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし